

いばらきネットモニター 文化振興に関するアンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：平成31年4月25日（木）から令和元年5月6日（月）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

いばらきネットモニター数：484名（県内モニターのみ）

回収率：52.3%（回収数253名）

回答者の属性：（百分率表示は小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある）

全体		人数(人)	比率(%)
性別	男性	132	52.2
	女性	121	47.8
地域	県北	30	11.9
	県央	96	37.9
	鹿行	19	7.5
	県南	84	33.2
	県西	24	9.5
年齢	16～19歳	0	0.0
	20～29歳	12	4.7
	30～39歳	40	15.8
	40～49歳	61	24.1
	50～59歳	63	24.9
	60～69歳	38	15.0
	70歳以上	39	15.4
職業	自営業	21	8.3
	会社員	79	31.2
	団体職員	5	2.0
	公務員	6	2.4
	主婦・主夫	61	24.1
	学生	3	1.2
	無職	56	22.1
	その他	22	8.7

(2) 調査目的

文化振興事業に関する県民意識を把握し、今後の施策展開の参考とするために実施するもの。

担当課：茨城県 県民生活環境部 生活文化課

電話：029-301-2824

E-mail：seibun2@pref.ibaraki.lg.jp

2 調査結果と考察

【問1】

文化芸術の振興のため、重点的に事業を実施すべきと考える対象者について、次の中から1つだけ選んでください。

(単位：%)

小・中学生	文化芸術の担い手	高校生・大学生	勤労世代	未就学児	高齢者
33.2	9.9	6.7	4.0	3.2	2.4
障害者	外国人	観光客	子育て世代	対象は問わない	
1.6	1.6	1.6	1.6	34.4	

「小・中学生」が33.2%で最も多かった。

「文化芸術の担い手」が9.9%で次に多かった。

以降「高校生・大学生」6.7%、「勤労世代」4.0%、「未就学児」3.2%の順となった。

比較的、若い世代に対し、重点的に事業を実施すべきとの結果となった。

【問2】

文化芸術の振興のため、重点的に事業を実施すべきと考える場所について、次の中から1つだけ選んでください。

(単位：%)

文化施設 (美術館・ホール)	学校	博物館 (水族館・動物園・植物園等)	図書館・公民館	公共空間 (公園や広場)	商業施設	保育園・幼稚園	観光施設	交通・運輸施設 (駅・空港・港)	高齢・障害者施設	スポーツ施設	宿泊施設	場所は問わない
29.6	18.2	5.1	5.1	4.3	4.0	3.2	2.8	2.8	2.4	1.2	0.4	20.9

「文化施設」が29.6%で最も多かった。

「学校」が18.2%で次に多かった。

以降、「博物館」5.1%、「図書館・公民館」5.1%、「公共空間」4.3%の順となった。

現在、文化振興事業が比較的多く行われている施設等が選択されたが、公共空間や観光施設、交通・運輸施設など、文化振興事業があまり行われていない施設等も一定の選択があった。

【問3】

文化芸術の振興のため、重点的に事業を実施すべきと考える分野について、次の中から1つだけ選んでください。

(単位：%)

文学 (小説・詩句等)	1.6
演劇 (現代劇含む)	1.6
美術② (彫刻・工芸美術等)	1.6
文化財	3.2
食文化	3.6
音楽② (ポピュラー音楽)	3.6
メディア芸術 (映画・アニメ・ゲーム・デジタルアート等)	5.5
美術① (日本画・洋画・書・写真等)	6.7
音楽① (クラシックや日本の伝統音楽)	7.9
地域の伝統的な行事や民俗芸能 (神楽, お囃子, 太鼓等)	11.5

分野は問わない	44.7
囲碁や将棋などの国民娯楽	0.0
歌唱(コーラス等) ※カラオケは除く	0.4
落語・漫談・漫才	0.8
舞踊(バレエ, 日本舞踊等)	0.8
現代アート(インスタレーション等)	1.2
茶道・華道	1.2
オペラ・ミュージカル	1.2
衣服や住居に係る生活文化	1.6
能・狂言・歌舞伎	1.6

「地域の伝統的な行事や民俗芸能」が11.5%で最も多かった。

「音楽①」が7.9%で次に多かった。

以降、「美術①」6.7%、「メディア芸術」5.5%、「音楽②」3.6%の順となった。

【問4】

文化芸術の振興のため、重点的に事業を実施すべきと考える手法について、次の中から1つだけ選んでください。

(単位：%)

体験 (ワークショップ等)	鑑賞	保存・継承 (文化財や伝統文化の保存・継承等)	人材確保・育成 (文化施設における専門人材の確保・育成等)	意識醸成 (文化芸術に関する意識の醸成等)	発信・情報提供	発表 (文化施設など観客の前での発表等)	教育 (学校等における授業等)	整備・充実 (文化施設の整備・充実等)	創造 (各自の視点による新たな創作等)	交流 (外国人や異年齢など多様な人材の交流等)	手法は問わない
28.1	12.6	7.5	5.9	5.1	5.1	4.3	4.0	3.6	3.2	2.8	17.8

「体験」が28.1%で最も多かった。

「鑑賞」が12.6%で次に多かった。

以降、「保存・継承」7.5%、「人材確保・育成」5.9%、「意識醸成」5.1%、「発信・情報提供」5.1%の順となった。